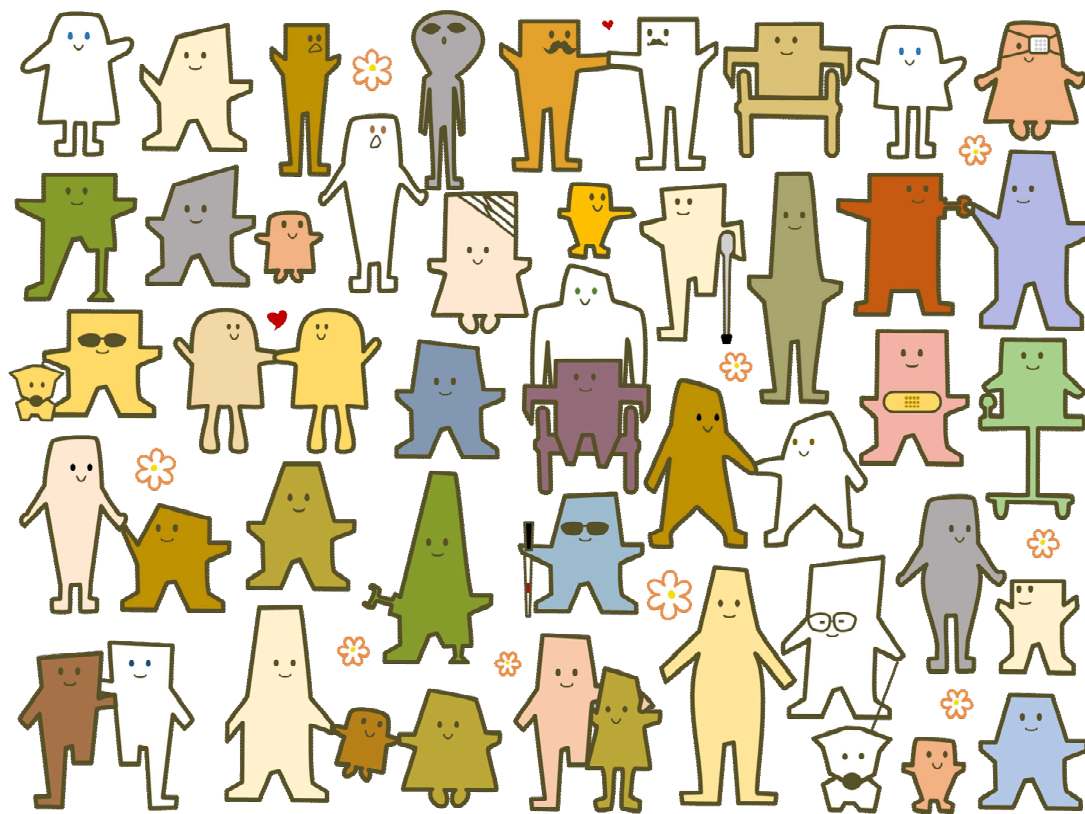


共生社会を創るには？

～ちがいを活かす保育・教育から～



日時：10月28日（土）

13：30から
17：00まで

場所：倉吉体育文化会館 大研修室

（開場13：15）

■日程

- 1部 講演 (13:30~14:05)
- 2部 映画『みんなの学校』上映 日本語字幕あり (14:10~16:00)
- 3部 講師との意見交換 (16:10~17:00)

■入場料：無料

■定員：180人（要申込）

●申込は、電話、メールまたは電子申請
（URL <https://bit.ly/3YPXj72> または
右QRコード）のいずれかでお申し込みください。

■申込・お問い合わせ先

倉吉市人権教育研究会事務局（倉吉市人権政策課内）
電話：0858-22-8130



■講師

堀 智晴さん

（インクルーシブ（共生）教育研究所所長）

●すべての子どもたちが
共に教育を受け、共に暮らす
地域づくりのために—。

●映画『みんなの学校』については裏
面をご覧ください。



mail:jinkenseisaku@city.kurayoshi.lg.jp

この機会にぜひご覧ください

みんなの学校



すべての子供に居場所がある学校を作りたい。

大空小学校がめざすのは、「不登校ゼロ」。ここでは、特別支援教育の対象となる子ども、自分の気持ちをうまくコントロールできない子ども、みんな同じ教室で学びます。ふつうの公立小学校ですが、開校から6年間、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人もいっしょになって、誰もが通い続けることができる学校を作りあげてきました。

すぐに教室を飛び出してしまう子ども、つい友達に暴力をふるってしまう子ども、みんなで見守ります。あるとき、「あの子どもが行くなら大空には行きたくない」と噂される子どもが入学しました。「じゃあ、そんな子どもはどこへ行くの？ そんな子どもが安心して来られるのが地域の学校のはず」と木村泰子校長。やがて彼は、この学び舎で居場所を見つけ、春には卒業式を迎えます。いまでは、他の学校へ通えなくなった子どもが次々と大空小学校に転校してくるようになりました。



学校が変われば、地域が変わる。 そして、社会が変わっていく。

このとりくみは、支援が必要な児童のためだけのものではありません。経験の浅い先生をベテランの先生たちが見守る。子供たちのどんな状態も、それぞれの個性だと捉える。そのことが、周りの子どもたちはもちろん、地域にとっても「自分とは違う隣人」が抱える問題を一人ひとり思いやる力を培っています。



映画は、日々生まれかわるよう育っていく子供たちの奇跡の瞬間、ともに歩む教職員や保護者たちの苦悩、戸惑い、よろこび……。そのすべてを絶妙な近さから、ありのままに映していきます。そもそも学びとは何でしょう？ そして、あるべき公教育の姿とは？ 大空小学校には、そのヒントが溢れています。みなさんも、映画館で「学校参観」してみませんか。

驚いた！ ここには、ありのままの公立小学校の魅力が、大胆に惜気もなく躍動している。人間が発達可能体であることを、限界なしに教えてくれる。それにしてもスゴイ記録映画が完成したものである。学校と教育の未来に、希望が湧く映画である。

—— 尾木直樹 (尾木ママ) 教育評論家

一緒に学ぶという選択肢を考えられなかった人たちに、こんな方法もあるんだということを知ってほしいと思いました。

—— 20代・女性 (大学院生)

平成25年度(第68回)文化庁芸術祭大賞 受賞理由

他の地域では厄介者扱いされていた転校生が、教師と同級生、そして地域が包み込むことで、素直で心優しい子供に成長していく姿は、見ている者の心を熱くする。大空小学校の試みは、上からの教育改革とは一線を画す、現場からの教育改革でもある。

子供たちひとりひとりが能力に応じて大切にされていること、手がかかる子どもかからない子どもいけど平等に愛されていること、そういう学校が地域の中で理解されて存在していること、それらのことにとっても感動しました。

—— 細川貂々 (漫画家・イラストレーター)

minna-movie.com

(C)関西テレビ放送